明治初年備後国福山藩の寺院経営

メタデータ	言語:
	出版者: 明治大学教養論集刊行会
	公開日: 2023-12-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 圭室,文雄
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/0002000223

明治大学教養論集　通巻五七五号（二〇二三・一二）一〇五―一三三頁

明治初年備後国福山藩の寺院経営

圭室文雄

前回は九州地方、とりわけ熊本藩領について明治初年の寺院経営について検討を加えた。今回は中国地方の中でも特色のある福山藩領について論述したいと思う。

第一章　福山藩の寺院と檀家の分布

福山藩領の諸宗派について

まず第一表は、福山藩領の諸宗派の寺院数と檀家数の分布について表示してみたものである。

総寺院数は四四〇か寺である。寺院数の多い宗派をみると、第一位は一向宗西本願寺派の八五か寺、第二位が古義真言宗の八三か寺、第三位が本山修験宗の六三か寺、第四位が当山修験宗の六二か寺である。第五位は日蓮宗の四四か寺、第六位は曹洞宗の三〇か寺、第七位は臨済宗の二三か寺、第八位は一向宗東本願寺派二〇か寺、第九位は浄土

第１表　備後国福山藩諸宗派の寺院数と檀家数の分布　明治３年（1870）現在

滅罪檀家数	古義真言宗	真言律宗	浄土宗	一向宗東	一向宗西	時宗	臨済宗	曹洞宗	普化宗	日蓮宗	本山修験	当山修験	合計
0	5		1	1		1	4	2	8	11	63	62	158
１～10	8		2		3		1	1		1			16
11～20	7		1	2			4	3		2			19
21～30	6		1	1	3	1	**4**			3			19
31～40	5		1	1	5		1	3		2			**18**
41～50	10			1	3		1	2		**3**			20
51～60	**2**		2	2	3			**4**					13
61～70	2		1		2			2		2			9
71～80	6		**1**		4		2			3			16
81～90	5		1	1	2		1	2		1			13
91～100	3			**1**	3			2		2			11
101～150	11	1	4	4	8		2	5		4			39
151～200	6			2	**10**		1	1		6			26
201～300	4		3	2	21			3		1			34
301～400				1	8		1			1			11
401～500	1		1		4					1			7
501～600	1				2								3
601～700				1	2		1			1			5
701～800					2								2
不記	1												1
合計	83	1	19	20	85	2	23	30	8	44	63	62	440
総檀家数	6,823	110	2,096	2,789	18,141	30	1,966	2,558	0	4,265	0	0	38,778
無檀家寺院を除いた1寺あたりの平均檀家数	87.5	110	116.4	146.8	213.4	30	103.5	91.4	0	129.2	0	0	137.5
無住の寺	11		1		2	2	3	1		2	1		23

太字は各宗派の檀家数の中央値

参考文献　明治３年（1870）「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」（国立国会図書館所蔵）

宗一九か寺、第十位は普化宗八か寺、第十一位は時宗二か寺、第十二位は真言律宗一か寺である。

つぎに各宗派寺院の檀家数の様子を見てみよう。福山藩全体の滅罪檀家数は三八、七七八軒であるが、注目すべきは一向宗西本願寺派と一向宗東本願寺派を合わせると、二〇、九三〇軒にのぼる事である。全体の約五四％に達する。もとより隣接する安芸国は「備前法華に安芸門徒」と称されており、一向宗寺院が極めて多いところである。この事から云えば、福山藩に一向宗が多いのは当然かも知れない。

つぎに多いのは古義真言宗の六、八一三軒で、全体の約一七・六％、第三位は日蓮宗四、二六五軒で、約一一％、第四位は曹洞宗二、五五八軒で、約六・六％、第五位は浄土宗で二、〇九六軒で約五・四％、第六位は臨済宗一、九六六軒で約五・一％である。この他では真言律宗は一一〇軒、時宗は三〇軒、普化宗・本山修験宗・当山修験宗はいずれも滅罪檀家数は零である。

以上の事からやはり一向宗の滅罪檀家数が極めて多い事がわかる。尤も一向宗の内訳は西本願寺派と東本願寺派を比較すると、西本願寺派約八六・七％、東本願寺派約一三・三％と、西本願寺派の檀家が圧倒的に多い事が指摘できる。

ところで第一表の無住の寺院について検討してみると、全寺院数四四〇か寺にたいして、無住寺院一三か寺なので、全体の約五・二％に過ぎないことがわかる。

また、檀家数零の寺院数を見ると、本山修験宗・当山修験宗が多い事が注目できる。この二宗派を合計すると一二五か寺となり、全体の無檀寺院の約七九％を占める。

下段は、各宗派寺院の中から檀家数零の寺院を差し引いて一か寺あたりの単純平均の檀家数を算出してみた。つぎのようになる。

第一位は一向宗西本願寺派一か寺あたり二一三・四軒、第二位一向宗東本願寺派一四六・八軒、第三位日蓮宗

一二九・二軒、第四位浄土宗一一六・四軒、第五位真言律宗一一〇軒、第六位臨済宗一〇三・五軒、第七位曹洞宗九一・四軒、第八位古義真言宗八七・五軒、第九位時宗三〇軒、普化宗・本山修験宗・当山修験宗はいずれも滅罪檀家は零である。

つぎに檀家数三〇〇軒以上を持っている寺を表示したのが第二表である。

ついで檀家数三〇〇軒以上持っている寺について検討してみる。

檀家数三〇〇軒以上の寺　第二表は檀家数三〇〇軒以上持っている寺名・宗派名・本山名・檀家数・郡名・地名を記した表である。

江戸時代の寺院経営で一か寺あたり三〇〇軒以上の檀家を持っていれば経営が安定している寺と考えていいと思う。江戸時代の檀家制度は、寺院住職が近隣の人々の寺請証文（キリシタンではない、と僧侶が保証する証文）を作成するようになってから、と考えられる。その契機となったのは幕府が寛文五年（一六六五）と寛文一二年（一六七二）に全国民の戸籍である宗旨人別帳の作成を命じ、そのおり寺院住職に寺請証文の作成を義務付けたことである。つまりこの時期以前に成立していた寺は多くの檀家を獲得することが出来たのである。この第二表の三一か寺は少なくとも一六七〇年以前に成立していた寺といえる。

まず宗派別に見てみよう。最も多い宗派は一向宗西本願寺派の二一か寺で、全体の約六八％にのぼる。この他では日蓮宗が三か寺、一向宗東本願寺派・臨済宗・古義真言宗がいずれも二か寺。浄土宗が一か寺である。

檀家数三〇〇軒以上の寺がないのは真言律宗・時宗・曹洞宗・普化宗・本山修験宗・当山修験宗である。

郡ごとの寺数をみてみると、沼隈郡一四か寺、深津郡一〇か寺、芦田郡七か寺となる。

まずは寺院数・檀家数ともに多い一向宗西本願寺について検討してみたい。

第 2 表　備後国　福山藩寺院の檀家数 300 軒以上の寺

	宗派	寺名	本山	檀家数	郡名	地名
1	一向宗西派	光円寺	西本願寺	789	芦田	府中市村
2	一向宗西派	専明寺	西本願寺	715	深津	三吉村
3	一向宗西派	慶照寺	西本願寺	689	芦田	出口村
4	臨済宗	承天寺	妙心寺	683	沼隈	松永村
5	日蓮宗	妙顕寺	妙顕寺	650	沼隈	水呑村
6	一向宗西派	東蔵坊	西本願寺	640	沼隈	本郷村
7	一向宗東派	最善寺	東本願寺	625	深津	福山寺町
8	一向宗西派	明浄寺	西本願寺	600	芦田	府中村
9	一向宗西派	西福寺	西本願寺	600	芦田	金丸村
10	古義真言宗	観音寺	大覚寺	541	深津	福山吉津町
11	一向宗西派	常泉寺	西本願寺	490	沼隈	柳津村
12	浄土宗	大念寺	知恩院	487	深津	福山寺町
13	古義真言宗	長尾寺	大覚寺	480	深津	深津村
14	日蓮宗	常国寺	本法寺	451	沼隈	上山田村
15	一向宗西派	正円寺	西本願寺	447	沼隈	山手村
16	一向宗西派	徳円寺	西本願寺	440	芦田	広谷村
17	一向宗西派	萬福寺	西本願寺	438	沼隈	西村
18	一向宗西派	福照坊	西本願寺	400	沼隈	藤江村
19	一向宗西派	光源寺	西本願寺	373	沼隈	下山南村
20	一向宗西派	法真寺	西本願寺	347	深津	福山吉津町
21	一向宗西派	光明寺	西本願寺	330	芦田	常村
22	一向宗西派	光善寺	西本願寺	330	深津	福山寺町
23	一向宗東派	光円寺	東本願寺	330	深津	津之下村
24	臨済宗	天徳寺	妙心寺	320	沼隈	田尻村
25	日蓮宗	妙法寺	妙顕寺	320	深津	福山福徳町
26	一向宗西派	善正寺	西本願寺	316	沼隈	田島村
27	一向宗西派	大東坊	西本願寺	303	沼隈	藁江村
28	一向宗西派	法蔵坊	西本願寺	303	沼隈	藁江村
29	一向宗西派	宝光寺	西本願寺	300	沼隈	下山南村
30	一向宗西派	真光寺	西本願寺	300	深津	市村
31	一向宗西派	正満寺	西本願寺	300	芦田	上有地村

参考文献　明治 3 年（1870）閏 10 月「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」（『明治初年寺院明細帳』第 6 巻　すずさわ書店）

第 3 表　西本願寺が本尊の阿弥陀如来木像と寺号を与えた寺院

	元号	年	西暦	月	日	国名	郡名	地名	寺名	檀家数
1	慶長	10	1605	4	4	備後	深津	市村	真光寺	300
2	慶長	11	1606	9	2	備後	品治	向永谷	金蔵坊	96
3	慶長	12	1607	3	7	備後	芦田	金丸	西福寺	600
4	慶長	13	1608	5	21	備後	安那	山野	光明寺	90
5	慶長	13	1608	6	3	備後	芦田	常村	光明寺	330
6	慶長	13	1608	9	4	備後	品治	服部本郷	福泉坊	200
7	慶長	13	1608	12	28	備後	沼隈	後地	南禅坊	162
8	慶長	14	1609	5	4	備後	沼隈	藤江	福照坊	400
9	慶長	14	1609	9	17	備後	神石	大矢	光徳寺	280
10	慶長	15	1610	閏2	8	備後	沼隈	柳津	常泉坊	490
11	慶長	15	1610	閏2	17	備後	沼隈	藤江	正蔵坊	203
12	慶長	15	1610	7	21	備後	沼隈	赤坂	浄泉坊	272
13	慶長	16	1611	4	15	備後	沼隈	中山南	南光坊	211
14	慶長	16	1611	4	15	備後	沼隈	中山南	宝福寺	59
15	元和	4	1618	7	27	備後	安那	東法成寺	西蓮寺	192
16	寛永	18	1641	8	13	備後	沼隈	下山南	善徳寺	128
17	寛永	18	1641	8	17	備後	深津	福山寺町	光明寺	243
18	寛永	18	1641	8	25	備後	深津	早戸	西明寺	185
19	寛永	19	1642	12	17	備後	沼隈	柳津	善立寺	226
20	寛文	2	1662	11	21	備後	芦田	府中市村	光円寺	789
21	寛文	2	1662	11	21	備後	芦田	府中市村	明浄寺	600

参考文献　『木仏留・御影様之留』本願寺史料集成　同朋社
檀家数は明治 3 年（1870）「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」国立国会図書館所蔵

第二章　福山藩諸宗派寺院の実態

一向宗西本願寺派の末寺が、福山藩には八五か寺あるので、いつ頃この地域に展開したのかを検討してみたい。第三表は西本願寺が本尊の阿弥陀如来木像と寺号を与えた寺院である。

西本願寺には全国の末寺が成立した時期がわかる史料として、「木仏留」（龍谷大学図書館所蔵）がある。この史料は西本願寺が末寺を取り立てるとき、末寺に与えた「木仏」（阿弥陀如来の木像）と「紙寺号」が記されている。木仏は末寺の本尊となるもので、紙寺号とは西本願寺法主が末寺の寺名を記して与えたものである。つまり木仏留とは木仏と紙寺号を与えた時期を記した

ものである。つまり西本願寺ではこの時期を末寺の開創年代としている。

木仏留は慶長二年（一五九七）～寛文三年（一六六三）までの六七年間の記録であるが、その中で現存するのは二〇年間の分のみである。残り四七年間分は現存しない。更に現在残っている二〇年間のものでも、一年間の元旦～大晦日まで記されている史料はなく、いずれも断片的な史料である。

たとえばその例を一つ挙げると、寛永一八年（一六四一）は七月二八日～八月二八日までの約一か月間のみしか残っていない。ところでこの一か月で西本願寺から木仏をもらった全国の末寺は二八七か寺にのぼっている。この事から考えると、失われた史料が多いのは残念である。

木仏留には備後国は五九か寺、安芸国は六九か寺の末寺が記されている。

ともあれ福山藩の明治三年（一八七〇）に存在した一向宗西本願寺派末寺八五か寺の内、二一か寺のみは木仏留から拾い出すことが出来た。全体から見れば四分の一足らずではあるが、貴重な史料といえる。

つぎに、西本願寺が末寺に購入させたものについて検討する。

西本願寺が末寺に購入させたもの　第四表は一向宗西本願寺派の末寺が木仏・紙寺号以外に購入した物である。

多くの末寺は大谷本願寺親鸞聖人御影を購入しているが、これは非常に高価なものであるにもかかわらず、購入させられている。末寺は毎年宗祖親鸞聖人の命日の法要のおり、軸物なので本堂に掛けて供養会を行っている。期間は親鸞の命日、旧暦では一一月二八日に行われていたが、現在では一月九日～一六日にわたり報恩講として行われている。

聖徳太子御影は一向宗では仏教を保護した人物として高く評価しており、これも多くの寺が購入している。

三朝高祖真影は親鸞が浄土真宗相承の祖師と定めた七人の高僧、七祖ともいう。印度の龍樹・天親、中国の曇鸞・

第４表　福山藩の一向宗寺院が西本願寺から購入した物

	元号	年	西暦	月	日	国名	郡名	地名	寺名	購入した物	檀家数
1	寛永	11	1634	12	9	備後	芦田	金丸	西福寺	聖徳太子御影・三朝高祖真影 准如上人絵像	600
2	寛永	11	1634	12	9	備後	芦田	広谷	徳円寺	大谷本願寺親鸞聖人御影	400
3	寛永	12	1635	8	21	備後	安那	道上	浄光寺	大谷本願寺親鸞聖人御影	163
4	寛永	12	1635	10	6	備後	沼隈	柳津	常泉寺	准如上人絵像	490
5	寛永	12	1635	10	6	備後	芦田	有地	正満寺	准如上人絵像	300
6	寛永	13	1636	6	21	備後	深津	福山寺町	光善寺	准如上人絵像	330
7	寛永	13	1636	7	27	備後	品治	向永谷	金蔵坊	准如上人絵像	96
8	寛永	13	1636	7	27	備後	神石	大矢	光徳寺	大谷本願寺親鸞聖人御影	280
9	寛永	13	1636	8	2	備後	沼隈	中山南	南光坊	蓮如上人絵像	211
10	寛永	14	1637	6	21	備後	沼隈	山手	正円寺	准如上人絵像	447
11	寛永	19	1642	2	13	備後	沼隈	藤江	正蔵坊	准如上人絵像	203
12	寛永	19	1642	12	17	備後	沼隈	柳津	善立寺	大谷本願寺親鸞聖人御影	226

参考文献　『木仏留・御影様之留』本願寺史料集成　同朋社
檀家数は明治３年（1870）「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」国立国会図書館所蔵

道綽・善導、日本の源信・法然の七人の高僧の絵像のことである。

この表に見るようにいずれの絵像等は寛永一一年（一六三四）～寛永一九年（一六四二）の九年間に購入したことがわかる。

第三表と比較してみると七か寺重複していることがわかる。その七か寺はいずれの寺もまず本尊阿弥陀如来木像と紙寺号をまず購入し、少し時間が経過してからさまざまなものを購入していることがわかる。

しかし備後国沼隈郡柳津村善立寺のみは寛永一九年一二月一七日に阿弥陀如来木像と紙寺号と大谷本願寺親鸞聖人御影を同時に購入していることがわかる。

なお第三表と第四表を比較すると七か寺は重複しているが、第四表のみの末寺が五か寺あるので、第三表の二一か寺に五か寺加算して、合計二六か寺は西本願寺の『木仏留・御影様之留』に記載されていることがわかった。一向宗西本願寺派の八五か寺の内、約三一％の末寺の成立過程は明らかになった。

つぎに古義真言宗寺院について検討してみたい。

古義真言宗寺院は八三か寺あるが、大別すると、本山はいずれも京都にある御室仁和寺の末寺二二か寺、嵯峨大覚寺末寺六一か寺に分かれる。

仁和寺の直末寺は備後国芦田郡町村栄明寺であり、その配下に一三か寺がある。このほか福山藩の藩外である広島藩領の備後国御調郡後地村西国寺末寺が八か寺ある。

大覚寺の直末寺は福山藩領に限って云えば沼隈郡草戸村明王院、同郡東中条村広山寺、深津郡福山吉津町観音寺の三か寺である。ちなみに明王院は末寺四五か寺、広山寺は末寺九か寺、観音寺は末寺一か寺をそれぞれ抱えていた。

なお隣接する備中国の幕府領である小田郡笠岡村遍照寺も大覚寺の直末であるが、この寺の末寺が福山藩内に三か寺ある。

以上の事から古義真言宗に限って云えば大覚寺末寺が圧倒的に多い事がわかる。なお福山藩領には高野山の末寺は一か寺も存在していない。

寛政三年（一七九一）「備後国古義真言宗本末帳」（水戸市彰考館文庫所蔵）によれば明治三年寺院明細帳に記載されている古義真言宗八三か寺の内七六の寺院は記載されている。七か寺は記載されていない。

寛政三年古義真言宗本末帳に記載されていない寺は七か寺あるが、それらの寺の明治三年の様子を見てみよう。

上山寺村観音院は「住職これ無く当藩管轄沼隈郡草戸村明王院末同国芦田郡福性院住職円性兼帯これあり候」滅罪檀家四八軒、

芦原村開法寺は住職は居るが「滅罪檀家これなし」とあり、檀家零。

千田村宝寿院は住職もおり、滅罪檀家二三軒とある。

栗柄村虚空蔵院、住職はいるが滅罪檀家二軒とある。
八尋村蓮乗院、住職はおり、滅罪檀家一八〇軒とある。
新山村福盛寺、住職はおり滅罪檀家二〇〇軒
芦原村弥勒院は「円通寺住職周道兼帯」滅罪檀家二軒

以上のように滅罪檀家が少ない寺は寛政三年（一七九一）以後に開創された寺院と思われる。

一方寛政三年以降に成立したと思われる寺で数多くの檀家を抑えているということは、これだけの史料では充分説明できない。

つぎに日蓮宗について検討してみたいと思う。第五表は、福山藩日蓮宗寺院の成立過程を表示したものである。

日蓮宗寺院の成立過程

史料は寛永一〇年（一六三三）「日蓮宗本末帳」（国立公文書館内閣文庫所蔵）、天明六年（一七八六）「日蓮宗寺院本末帳」（水戸市彰考館文庫所蔵）、明治三年（一八七〇）「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」（国立国会図書館無所蔵）である。檀家数は明治三年現在のものである。

まず第五表を説明する。郡ごとにみてみると寺院数四四か寺の内訳は沼隈郡二四か寺、深津郡八か寺、芦田郡・安那郡がそれぞれ四か寺、神石郡三か寺、品治郡一か寺となる。日蓮宗に限って云えば沼隈郡に集中しているといえる。

つぎに日蓮宗寺院の成立過程についてみてみよう。寺請制度が成立する以前の寛永一〇年（一六三三）に一五か寺成立している。他宗派寺院の成立は概ね寛文五年（一六六五）の、全国民に対する宗旨人別帳の作成の時期前後に集中している。その意味でこの地域の日蓮宗寺院はかなり早く京都の日蓮宗本山が末寺開創に乗り出してきている様子がわかる。

第５表　福山藩日蓮宗寺院の成立過程

	郡名	地名	寺院名	本山名	寛永10	天明6	明治3	檀家数	備考
1	深津	福山	妙法寺	京都妙顕寺	○	○	○	320	
2	沼隈	水呑	妙顕寺	京都妙顕寺	○	○	○	650	
3	沼隈	水呑	善住寺	京都妙顕寺	○	○	○	50	
4	沼隈	下山南	本光寺	京都妙顕寺	○	○	○	42	
5	沼隈	水呑	重顕寺	京都妙顕寺	○	○	○	180	
6	沼隈	田尻	顕応寺	京都妙顕寺	○	○	○	75	
7	沼隈	上山田	常国寺	京都本法寺	○	○	○	461	
8	沼隈	後地	法宣寺	京都妙顕寺	○	○	○	73	
9	沼隈	後地	妙蓮寺	京都妙顕寺	○	○	○	81	
10	沼隈	能登原	正瑞寺	京都妙蓮寺	○	○	○	40	
11	安那	栗根	妙永寺	京都妙顕寺	○	○	○	130	
12	芦田	府中市村	法音寺	京都妙顕寺	○	○	○	62	
13	芦田	下安地	本安寺	京都本能寺	○	○	○	200	
14	芦田	相方	本泉寺	京都本能寺	○	○	○	180	
15	品治	新市	本住寺	京都本能寺	○	○	○	183	
16	安那	川南	妙立寺	京都本法寺		○	○	75	
17	深津	福山	光政寺	京都妙覚寺		○	○	140	
18	深津	福山	長正寺	京都本圀寺		○	○	98	
19	深津	福山	通安寺	京都本法寺		○	○	186	
20	深津	野々濱	蓮瑞寺	京都本法寺		○	○	0	
21	沼隈	後地	顕政寺	京都本法寺		○	○	128	
22	沼隈	中山田	法縁寺	京都本法寺		○	○	15	
23	安那	山野	本覚寺	京都妙顕寺		○	○	26	
24	神石	笹屋	上妙楽寺	京都妙顕寺		○	○	61	
25	神石	笹屋	東福寺	京都妙顕寺		○	○	34	
26	神石	笹屋	妙楽寺	京都妙顕寺		○	○	95	
27	芦田	中須	本覚寺	京都本能寺		○	○	25	
28	沼隈	本郷	大法寺	京都妙蓮寺		○	○	49	
29	沼隈	本郷	妙皇寺	京都妙蓮寺		○	○	218	
30	深津	福山吉津	妙政寺	京都妙傳寺			○	180	
31	深津	福山吉津	実相寺	身延山久遠寺			○	150	
32	安那	箱田	一乗寺	京都妙顕寺			○	4	
33	沼隈	柳津	妙蔵寺	京都妙顕寺			○	24	
34	深津	福山吉津	恵了坊	京都妙傳寺			○	20	妙政寺塔頭
35	沼隈	水呑	寿仙坊	京都妙顕寺			○	0	福山妙顕寺塔頭
36	沼隈	水呑	玉泉坊	京都妙顕寺			○	0	福山妙顕寺塔頭
37	沼隈	水呑	玄祥坊	京都妙顕寺			○	0	福山妙顕寺塔頭
38	沼隈	上山田	山本坊	京都本法寺			○	0	常国寺塔頭
39	沼隈	上山田	松之坊	京都本法寺			○	0	常国寺塔頭
40	沼隈	上山田	中之坊	京都本法寺			○	0	常国寺塔頭
41	沼隈	上山田	谷之坊	京都本法寺			○	0	常国寺塔頭
42	沼隈	上山田	岸之坊	京都本法寺			○	0	常国寺塔頭
43	沼隈	上山田	竹之坊	京都本法寺			○	0	常国寺塔頭
44	沼隈	上山田	寿量寺	京都本法寺			○	0	常国寺塔頭

参考文献　上記表の寛永10年（1633）は「日蓮宗末寺帳」（国立公文書館内閣文庫所蔵）
天明6年（1786）は「日蓮宗末寺帳」（水戸市彰考館文庫所蔵）
明治3年（1870）は「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」（国立国会図書館所蔵）
以上の史料による

その後天明六年（一七八六）に記帳されている寺は一四か寺ある。これらの寺はおそらく先述の寛文年間頃に成立したものと思われる。

明治三年（一八七〇）段階で新に登場している寺は一五か寺あるが、四か寺を除いてはいずれも日蓮宗末寺で規模が大きい寺の塔頭寺院である。その数一一か寺である。

なお明治三年の史料の中の一か寺、つまり深津郡吉津村実相寺のみが甲斐国身延山久遠寺の末寺である。

つぎに本山ごとの末寺の様子を検討してみる。

日蓮宗は末寺と塔頭を含めて四四か寺ある。その内訳は、末寺三三か寺、塔頭一一か寺である。

一番末寺を多く持っているのは京都の妙顕寺である。一九か寺の末寺がこの地域に存在している。その内、寛永一〇年の本末帳では一〇寺辿れる。天明六年（一七八六）の「京都妙顕寺本末帳」では更に四か寺辿る事ができる。明治三年明細帳では更に五か寺辿る事ができる。本山の妙顕寺は日蓮宗京都一六本山の一つで、京都市上京区寺之内通にあり、開創は元亨元年（一三二一）、開山は日像と伝える。

二番目に末寺が多い本山は京都の本法寺、一三か寺である。寛永一〇年の本末帳には一か寺、天明六年本法寺末寺帳にはさらに五か寺含まれている。明治三年明細帳では更に七か寺辿る事ができる。本法寺は京都市上京区小川通にあり、開創は康正年間（一四五五～七）、開山は日親。

三番目は京都の本能寺末寺の四か寺である。寛永一〇年本末帳には三か寺。天明六年本能寺派末寺帳によれば更に一か寺記されている。本能寺は京都市中京区寺町にある。開創は応永二二年（一四一五）、開山は日隆。

四番目は京都妙蓮寺末寺が三か寺ある。寛永一〇本末帳には一か寺、天明六年妙蓮寺派寺院本末帳には更に二か寺しるされている。妙蓮寺は京都市上京区寺之内通大宮東入ルにある。開創は延慶二年（一三〇九）、開山は日像。

末寺が福山藩領に一か寺のみある本山は京都の妙傳寺・本圀寺・妙覚寺と甲斐国身延山久遠寺である。甲斐国の久遠寺は日蓮の墓地がある日蓮宗の総本山である。開創は文永一一年（一二七四）、開山は日蓮である。京都の三つの本山について記すと妙覚寺は京都市上京区新町通にある。開創は永和四年（一三七八）。開山は日実。本圀寺は現在京都市山科区御陵大岩町にある。開創は貞和元年（一三四五）、開山は日静。妙傳寺は京都市左京区北門前町にある。開創は文明七年（一四七五）、開山は日意。

表で明らかなように本山はいずれも京都の一六本山といわれる大寺院である。身延山久遠寺末寺は一か寺に過ぎない。身延山をはじめ関東地方の日蓮宗大本山寺院が殆ど展開していないことは注目したいと思う。

福山藩の日蓮宗の寺院が江戸時代初期の寛永一〇年までに一五か寺開創していた事は、注目すべきことである。福山藩にある日蓮宗寺院の中で大規模な寺院と思われるのは妙政寺・妙顕寺・常国寺の三か寺である。妙政寺の本山は京都妙傳寺である。妙政寺は深津郡福山町吉津村にあり、境内地は一二、五八五坪あり、この土地は年貢免除地とされている。滅罪檀家は一八〇軒持っている。塔頭恵了坊を抱えている。妙政寺には福山藩第二代藩主水野勝俊の墓がある。

福山藩の妙顕寺の本山は京都妙顕寺である。本山は日像が開山、京都には一三三一年に入った日蓮宗最初の寺院、福山藩の妙顕寺は沼隈郡水呑村にあり、境内地は六〇九坪、この土地は年貢免除地で、滅罪檀家は六五〇軒ある。山林も年貢免除地で二町一反八畝を持っている。塔頭は寿仙坊・玉泉坊・玄祥坊の三か寺である。末寺は善住坊・本光寺・妙蔵寺の三か寺である。

沼隈郡上山田村常国寺は寛永一〇年（一六三三）「京本法寺末寺帳」（国立公文書館内閣文庫所蔵）に備後山田常国寺と記載されているので、既にこの時期には成立していた事がわかる。明治三年（一八七〇）「福山藩諸宗本末寺号

其外明細帳」（以下「寺院明細帳」と略称）によると、「京都本山本法寺末、中本寺常国寺とあり、境内六三二坪、滅罪檀家四六一軒、山林二町四反歩」とある大寺院である。塔頭は山本坊・松之坊・中之坊・谷之坊・岸之坊・竹之坊と寿量坊の七か寺を抱えている。このほか末寺三か寺を支配している。

『日本名刹大辞典』（雄山閣出版）（以下「名刹」と略称）によると常国寺は現在廣島県福山市熊野町にあり、広昌山定親院と称する。開創は文明年間（一四六九～八六）、開山は日親、開基は山田一乗山城主渡辺越中守。天正年中鞆に流されていた室町幕府一五代将軍足利義昭が三年間にわたってこの寺に滞在していたと伝えられている。慶長五年（一六〇〇）福島正則が入封すると本来の寺領一〇〇石が没収された。

このほか京都本能寺末寺の内、三か寺が寛永一〇年（一六三三）一一月「洛陽本能寺末寺帳」に記されている。備後国宮内村本住寺・有地本安寺・同本泉寺の三か寺が記されている。

明治三年「寺院明細帳」には品治郡新市村本住寺とあり、境内三五坪、滅罪檀家一八三軒、山林六反五畝三歩とある。

芦田郡下有地村本安寺は境内三〇八坪、滅罪檀家二〇〇軒、山林四反歩とある。

芦田郡相方村本泉寺は境内一一九坪、滅罪檀家一八〇軒とある。

京都の本山本能寺には福山藩内の末寺から提出した「由緒書」が残されているので、紹介しておきたい。本能寺末寺の品治郡新市村本住寺・芦田郡相方村本泉寺・芦田郡有地村本安寺・芦田郡中津村本覚寺の四か寺の分である。史料は藤井学・波多野郁夫編『本能寺史料西国末寺編』（思文閣出版）による。いずれも詳しく書かれているので必要な箇所のみ要約して記した。

本住寺は天保一〇年（一八三九）九月「新市村本住寺由緒書」によるとこの寺の開創年代は慶長三年（一五九八）

三月、開基者は相方村千葉修理進ほか六名、開山は善住院日慶、本堂二五坪、庫裏三二坪、田畑五反五畝、檀家二〇八軒とある。

本泉寺は天保一〇年一〇月「相方村本泉寺由緒書」によると、真言宗の旧地を買い取り、日蓮宗に改宗。開創年代は天正元年（一五七三）、開基者は有地美作守、開山は先蔵院日継、本堂は三三坪、庫裏は三二坪、檀家は二一八軒。

本安寺は天保一〇年一〇月「有地村本安寺由緒書」によると、開創年代は明応年間（一四九二～一五〇〇）、開基者は有地石見守、開山は本住院日領、本堂は二五坪、庫裏は三六坪、檀家三〇一軒。

本覚寺は天保一〇年一〇月「中津村本覚寺由緒書」によると、開創年代は万治年間（一六五八～一六六〇）、開基者は高木村楢崎治右衛門、開山は事円院日重、本堂は一六坪、庫裏は一八坪、檀家二五軒とある。

つぎに本山修験宗について検討してみたい。

本山修験宗は福山藩領には六三か寺ある。「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」を紹介すると、まず領内の頭禁頭は大徳寺である。

備前国児島郡林村
本山派五流　備後国深津郡福山米屋町
一、伝法院霞　頭禁頭　大徳寺
住職修善
一、境内無之　但町屋住居
一、滅罪檀家無之

一、元朱印地・除地山林等無之

この大徳寺は現在岡山県倉敷市林にある五流山伏傳法院の末寺であった事がわかる。傳法院の本山は京都の聖護院である。大徳寺は福山藩領の中本寺的役割を果たしてきた寺である。境内はなく、町屋に同居していたことがわかる。住職は町屋の主人か家族であり、生活は町人として暮らしていた事がうかがえる。何故ならば滅罪檀家これなしとあり、この事は葬式や法要をし、寺請証文を書く檀家が一軒もなかったことがわかる。

なおまた幕府や福山藩主から与えられた寺領もなく、藩が与えた年貢を免除する耕作地や山林も持っていなかったこともわかる。これまで小生は本山修験宗の寺がなにで生計を立てていたのかわからずにいたが、修験宗の場合は妻帯が許されていたので、当然家族の生活費も必要であった。

福山藩の本山修験宗の六三か寺のうち、大徳寺のような「町屋住居」とある寺は六か寺ある。

つぎに「農家住居」とある寺を挙げてみると、

本山派五流　　備後国沼隈郡山手村

一、傳法院霞下　　孔雀院　住職節山

一、境内但農家住居

一、滅罪檀家これなし

一、元朱印地・除地山林等これなし

とある。孔雀院は広島県福山市山手にある本山修験宗の寺であった。この寺は五流山伏の配下であった。この寺も葬式檀家や寺請檀家が一軒もなく生活を続けており、「農家住居」とあるので、身分は農民であったことがわかる。この場合本山修験宗の住職が主人であったか、家族であったかははっきりしないが、生活は農業で支えていたと考えていいと思う。本山修験宗六三か寺の内農家住居が五七か寺占めている。

以上のことから、本山修験宗の住職の生活は、町場では商人、農村では農民として生活していた事がわかる。

福山藩内で五流傳法院霞下（本山の聖護院からみると又末寺格）と記される寺は四二か寺で、大徳寺配下（孫末寺格）は二一か寺である。なお大徳寺配下と記された寺はいずれも寺名は無く僧名のみで、肩書きに無官とあり、いずれも境内・滅罪檀家はなく、「農家住居」としるされている。農家の仏間程度の部屋で宗教活動を行っていたものと思われる。

つぎに当山修験宗について検討してみる。

当山修験宗　福山藩領の当山修験宗は六二か寺あるが、いずれも大本山は山城国宇治醍醐三宝院である。寺格ごとにみてみる。

醍醐三宝院の直末寺院として格付けされているのは福山藩では六か寺ある。史料には山城国宇治郡末派と記されている。沼隈郡には金見村円城寺・本郷村本城院・地頭分村威徳院・浦崎村萬常院、芦田郡出口村真長院、深津郡本庄村正国院の六か寺である。これらの寺はいずれも支配下の孫末寺院を抱えていない。

福山藩領ではなく、他地域の直末寺院に支配されている寺院が五六か寺ある。福山藩領内で最も多くの支配下末寺を持っていたのは、醍醐三宝院の直末格寺院である大和国内山金剛乗院永久寺の末寺である。永久寺は現在の地名で言えば奈良県天理市杣之内町である。開創は平安時代といわれている。正保二年（一六四五）には山内に塔頭が五一

坊あり、寛文五年（一六六五）には江戸幕府から朱印九七一石を与えられている。明治政府の廃仏毀釈政策により、明治七年（一八七四）廃寺となった。しかし中世から近世にかけては極めて勢力が強く、隆盛を極めた大寺院であった。

永久寺支配下末寺、寺格で言えば又末寺格の寺は福山藩領に七か寺ある。その中で深津郡吉津村林光院は袈裟頭として孫末寺を三八か寺を支配していた。これらの寺の住居は農家居住としている。明治三年（一八七〇）の住職は厳譽である。

ところで林光院支配下の寺はいずれも「林光院配下」と記されており、寺名や坊名はなく「僧侶名」のみ記されている。住居はいずれも「農家住居」としるされている。

三八か寺を地域的にみてみると、沼隈郡一二か寺、品治郡一〇か寺、安那郡・芦田郡がそれぞれ六か寺、深津郡が三か寺、神石郡は一か寺のみである。沼隈郡・品治郡にかなり多く集中していることがわかる。

ここに掲げた孫末格の三八か寺は寺と言うよりも修験者個人と考えたほうがよいかと思う。しかもその多くの肩書きに「無官」としるされている。

二番目に多くの又末寺院を抱えていたのは、大和国の松尾寺である。修験道の霊場としたて盛んであったところである。現在の地名は奈良県大和郡山市山田町である。現在は真言宗醍醐寺派の寺院である。江戸時代には修験道の拠点のひとつであった。松尾寺の末寺（又末寺院格）は福山藩領に八か寺ある。

三番目は江戸時代大和国葛上郡高天村（現在奈良県御所市高天町）にあった古義真言宗高天寺である。この寺は奈良興福寺の塔頭一乗院の末寺であったが、明治初年廃寺となった。この寺の末寺が二か寺ある。

四番目は大和国吉野郡吉野山金峰山修験本宗桜本坊である。江戸時代は醍醐三宝院の直末寺で、当山派修験の有力寺であったが、明治以降独立した。この寺の末寺は福山藩領に一か寺ある。

これら当山修験宗の寺院は殆どが境内地もなく、滅罪檀家・寺領もなく、伽藍もなく、しいて言えば不特定の祈願檀家のみを相手にして生活を支えていたが、この史料を見る限り本山修験宗六三か寺、当山修験宗六二か寺、合計一二五か寺のうち、僅か一か寺の無住寺を除いては総ての寺に僧侶が存在している。一般的には修験者は妻帯し家族とともに生活している。福山藩の史料をみて初めて修験宗寺院の経営の様子が明らかになった。

それはそれぞれの寺名の所に、住居として「町家住居」や「農家住居」として附記されていたからである。つまり身分は町人や農民であることが明らかになったことである。生活の根拠はそれぞれの職業で最低限保障されていた事である。他の仏教諸宗派の僧侶の生活は滅罪檀家の葬式や法要が主な収入源であるので、檀家数の多寡により寺院経営の指標としていたが、修験者は宗教のみならず生活の糧を別に持っていたとすれば家庭生活は保証されていたと考えることが出来る。

しかし明治五年（一八七二）九月一五日の明治政府太政官布達第二七三号によれば

修験道の儀、今より廃止せられる、本山・当山・羽黒派とも、従来の本寺所轄のまま天台・真言両本宗へ仰せ付けられ候條、各地方官に於いてこの旨相心得、管内寺院へ相達すべく候事

但し将来営生の目的などこれなきをもって、帰俗出願のむきは、始末具状の上　教部省へ申しいずべく候事

とあり、今後修験宗は廃止する事、本山修験宗・当山修験宗・羽黒修験宗は、江戸時代の本寺の管轄のまま天台宗や真言宗へ改宗するよう命じている。即ち本山修験宗は天台宗へ、当山修験宗は真言宗へ、羽黒修験宗は天台宗へ改宗させるよう地方官に命じている。

地方によってはこれに対する施策は多様であるが、原則的には修験者達はそれぞれ改宗している。

一方明治政府が神仏分離政策をとったため、全国の藩や県で廃仏毀釈政策をとる地域も多く、修験者達は町民や農民の生活に身分を替える者、天台宗や真言宗に改宗する者、村落の村鎮守の神主に転職する者などと職業選択は多様であった。

つぎは曹洞宗について検討してみたい。

曹洞宗は三〇か寺の内本山永平寺の末寺が四か寺ある。いずれも法王派に所属し、永平寺の直末である肥後国（熊本県）飽田郡川尻町大慈寺の末寺である。

一方本山を總持寺とする末寺は二六か寺ある。總持寺の中でも太源派に属する寺院一六か寺、通幻派に属する寺院八か寺、実峰派に属する寺院が二か寺である。

全体の寺数三〇か寺の内、大別すると永平寺派が四か寺、總持寺派が二六か寺と言う数字になる。圧倒的に總持寺派が多い。福山藩領の曹洞宗寺院をもう少し詳しく見てみよう。

この地域で最も勢力を持っていたのは深津郡福山寺町賢忠寺である。この寺は福山藩の曹洞宗の触頭寺院である。元和五年（一六一九）福山藩主として入国した水野勝成（一〇万石）が父水野忠重の菩提供養のため、元和八年（一六二二）八月創建した寺院である。寺領は藩主水野氏から七一石六斗と一七人扶持が与えられている。その後藩主水野家代々の墓地がある。宝永四年（一七〇七）二月「備後国福山賢忠寺支配下諸寺院帳」（石川県輪島市門前總持寺祖院文書）によると、賢忠寺の本寺は三河国刈谷楞厳寺とあり、法王派とある。法王派の本山は前述の如く大慈寺である。大慈寺は延享四年（一七四七）「總持寺本末帳」作成の段階で始めて永平寺末寺に編入されている。

明治三年（一八七〇）「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」によれば、賢忠寺の境内は年貢免除地で七、三九五坪、滅

罪檀家六九軒、山林一町七反七畝一〇歩とある。末寺は善福寺・医光寺の二か寺である。

福山藩領の總持寺派寺院で数多くの末寺を抱えているのは深津郡福山吉津町龍興寺と、沼隈郡山手村三宝寺の二か寺である。先述の宝永四年二月史料によると龍興寺は一〇か寺の末寺、三宝寺は五か寺の末寺を支配している。

明治三年「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」によると龍興寺は總持寺末寺で太源派なので能登国鳳至郡門前（石川県輪島市門前）總持寺普蔵院が本山である。明治三年の史料によると中本寺とあり。境内は年貢免除地で一、九八〇坪あり、滅罪檀家は二七二軒とある。末寺は中興寺・宝台寺・潮音寺・長谷寺・龍泉寺・福泉寺・安全寺・宝巌寺・松林寺・信光寺である。

三宝寺は先述の明治三年の史料によると中本寺とあり、通幻派とあるので本山は總持寺であるが所属は妙高庵の配下となる。境内は年貢免除地で三八〇坪、滅罪檀家は二〇五軒、山林三反八畝一〇歩とある。末寺は昌源寺・広福寺・法運寺・持光寺・西林寺である。

つぎに臨済宗について検討してみる。

臨済宗寺院は二三か寺ある。京都にある妙心寺の末寺が最も多く一八か寺存在している。ついで備中国（岡山県）後月郡天神山村重玄寺の末寺が三か寺ある。さらに安芸国（廣島県）豊田郡許山村仏通寺末寺が一か寺ある。

京都市右京区花園にある妙心寺は開創暦応年間（一三三八～四一）、開山は関山恵玄、江戸時代には全国に五、一三〇の末寺を持つ大本山であった。臨済宗本山としては最も多くの末寺を抱えていた。現在は三、四二一か寺である。

重玄寺は嘉吉元年（一四四一）開創、開山は千畝と伝えている。

仏通寺の開創は応永四年（一三九七）、開山は愚中周及と伝える。臨済宗仏通派本山。

福山藩臨済宗触頭は深津郡福山東町にある妙心末寺の弘宗寺である。境内は四、〇四八坪、滅罪檀家三〇軒とあ

る。末寺は二か寺抱えている。

磐台寺は沼隈郡能登原村にある妙心寺の末寺であるが、開創は暦応年間（一三三八～四一）、開山は覚叟建智、元亀元年（一五七〇）毛利輝元が檀那となり、観音堂と客殿を建立したと伝えられている名刹である。

安国寺は妙心寺派末寺で、沼隈郡後地村にあるこの地域の小本寺である。この寺は既に鎌倉時代後期には金宝寺と称して成立していたようであるが、暦応二年（一三三九）足利尊氏が南北朝内乱期の戦没者供養を目的とし、全国に安国寺を一寺ずつ創立したおり、この地域では金宝寺から安国寺に名称を変更したと伝えられている。釈迦堂と本尊阿弥陀三尊像は国指定重要文化財となっている。

つぎに一向宗東本願寺派について検討してみる。

一向宗東本願寺派の末寺は二〇か寺である。西本願寺派末寺は八五か寺あるので、約四分の一に過ぎないし、檀家数を比較すると東本願寺派寺院は西本願寺派寺院の約一五％程度しか抱えていない。以上の事から考えると慶長七年（一六〇二）本願寺が東西に分裂してから中国地方へ末寺創立を図ったのは西本願寺が早かったことが指摘できると思う。

この地域の東本願寺派の触頭は妙蓮寺と道證寺と浄願寺の三か寺で、小本寺は明円寺である。

妙蓮寺は深津郡福山西町にあり、境内は一、〇八〇坪、滅罪檀家は六〇軒とある。

道證寺は深津郡福山寺町にあり、境内は一、一一〇坪、滅罪檀家九〇軒とある。

浄願寺は深津郡福山寺町にあり、境内は四五八坪、滅罪檀家は二一六軒とある。

明円寺は沼隈郡後地村にあり、境内九四六坪、滅罪檀家二五〇軒とある。

なお東本願寺末寺で最大の滅罪檀家を抱えているのは深津郡福山寺町にある最善寺で、滅罪檀家六二五軒であり、

境内地も一一五坪である。寺格はそれほど高いとは思われないが、この地域での檀家数では最も多い。

東本願寺の江戸時代初期の史料に『申物帳』がある。これによると本山から物品を購入するとその都度東本願寺法主に対して末寺から礼金を出さねばならなかった事がわかる。以下若干の例を記してみると、

一、大谷本願寺親鸞聖人御影御礼は銀九六三匁五分（約一六両）
一、歴代御影像御礼は銀三三四匁七分（約五・六両）
一、聖徳太子・七高祖御礼は銀二貫七四匁八分（約金三四・六両）
一、木仏御礼は銀三八三匁三分（約金六・四両）
一、紙寺号は銀二六二匁六分（約金四・四両）
一、紙坊号は銀一五五匁六分（約金二・六両）

以上は総て本願寺法主への謝礼金である。製作費は別料金である。

一向宗では東西本願寺とも末寺の坊号や寺号も本願寺法主が付与するものであり、その謝金として提出するものである。法主が寺名や坊名を紙に書くので「紙寺号」・「紙坊号」とよんでいる。

つぎに浄土宗について検討する。

浄土宗　福山藩の浄土宗寺院を先述の明治三年の史料で表示したのが第六表である。

浄土宗寺院は全体で一九か寺あるが、総て京都知恩院を本山とする寺院である。江戸の増上寺末寺は一か寺も存在していない。元禄九年（一六九六）とあるのは、全国の浄土宗寺院が増上寺に提出した「浄土宗寺院由緒書」であ

第 6 表　備後国福山藩浄土宗寺院の実態

	郡名	地名	寺院名	本山名	開創年	開山名	開山没	元禄9	明治3	檀家数
1	深津	福山西町	定福寺	知恩院	1621	円譽祖応	1636	○	○	101
2	深津	福山寺町	洞林寺	知恩院		信蓮社住譽	1671	○	○	62
3	深津	福山寺町	一心寺	知恩院	1626	円譽祖応	1636	○	○	103
4	深津	福山蘭町	安楽寺	知恩院	1557	重譽長円		○	○	130
5	沼隈	上山南町	悟真寺	知恩院	不詳	勝蓮社清譽		○	○	284
6	神石	時安	西福寺	知恩院		崇譽浄円	1582	○	○	26
7	芦田	高木	西雲寺	知恩院	1635	品譽龍岩	1672	○	○	55
8	深津	浦上	光福寺	知恩院		光譽秀天	1662	○	○	250
9	沼隈	神島	法然寺	知恩院	1557	重譽長円		○	○	13
10	沼隈	山北	極楽寺	知恩院	1577	円譽文宗	1601	○	○	83
11	安那	川北	万念寺	知恩院	不詳	願譽休閑		○	○	210
12	深津	深津	専故寺	知恩院	不詳				○	0
13	芦田	町村	金龍寺	知恩院	不詳	円譽廓翁		○	○	120
14	深津	福山寺町	大念寺	知恩院	1620	大譽龍天	1653	○	○	487
15	品治	下山寺	浄念寺	大念寺	1643	寛譽萬徹	1644	○	○	32
16	沼隈	高須	普門寺	大念寺	不詳				○	2
17	沼隈	後地	阿弥陀寺	知恩院		天譽岌井	1577	○	○	80
18	沼隈	鞆	浄泉寺	阿弥陀寺		閑譽慶存	1621	○	○	55
19	沼隈	後地	源正寺	阿弥陀寺		翁譽休隠	1605	○	○	8

参考文献　元禄 9 年（1696）は「浄土宗寺院由緒書」（『増上寺史料集第 7 巻』）
明治 3 年（1870）は「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」（国立国会図書館所蔵）
檀家数は明治 3 年現在

る。これによると専故寺と普門寺の二か寺はこの史料には記されていない。檀家数を見ると二か寺とも少ないので、一六九六年以降に開創した寺と思われる。

浄土宗がこの地域に進出したのは弘治三年（一五五七）深津郡福山安楽寺と沼隈郡神島村法然寺である。この二か寺の開山はいずれも重譽長円である。

その後建立された寺を辿ってみると、天正五年（一五七七）逝去した天譽岌井の沼隈郡後地村阿弥陀寺、天正五年円譽文宗が沼隈郡山北村に開創した極楽寺。天正一〇年（一五八二）逝去した崇譽浄円が開創した神石郡時安村西福寺、慶長一〇年（一六〇五）逝去

した翁譽休隠が開創した沼隈郡後地村源正寺。元和六年（一六二〇）大譽龍天が開創した深津郡福山寺町大念寺。元和七年（一六二一）円譽祖応が開創した深津郡西町定福寺。寛永三年（一六二六）円譽祖応が深津郡福山寺町に開創した一心寺。元和七年（一六二一）逝去した閑譽慶存が開創した沼隈郡鞆村の浄泉寺。寛永一二年（一六三五）品譽龍巌が開創した芦田郡高木村西雲寺。寛永年間（一六二四～四三）寛譽萬徹が開創した品治郡下山寺村浄念寺である。

のこりの四か寺についても一六六〇年代には成立したものと思われる。

福山藩領の浄土宗寺院を二か寺開創した僧侶が二人いる。一人は重譽長円であり、もう一人は円譽祖応である。

まず重譽長円と彼が開創した寺の様子を見てみよう。それは深津郡福山蘭町安楽寺と沼隈郡神島法然寺である。元禄九年（一六九六）「浄土宗寺院由緒書」によれば、安楽寺は「阿弥陀寺末、備後国深津郡福山、正覚山摂取院安楽寺、開山は重譽長円、当寺起立は弘治三丁巳歳（一五五七）なり」とある。

二か寺目の法然寺については「知恩院末、備後国沼隈郡古神嶋村、白空山法然寺、開山重譽長円、姓氏・生国・剃髪・附法之師を知らず、当寺建立は弘治三丁巳年（一五五七）の起立なり」とある。

いずれの寺でも重譽長円の出生地・師匠の名前・本人の姓氏名などは明らかではない。開創年代からみるとこの二か寺が福山藩領の浄土宗寺院としては最も古いといえよう。

二人目の人物は円譽祖応である。彼が開創した寺は深津郡福山西町定福寺と福山寺町一心寺である。先述の「浄土宗寺院由緒書」で紹介してみると、定福寺はつぎの如く記されている。

定福寺、知恩院末、備後国深津郡福山、無量山寿松院定福寺、開山円譽上人祖応和尚、俗姓は鈴木氏、生国は三州佐久嶋の人、剃髪の師詳らかならず、当寺は元三州刈谷之霊区にて開基せしめ、水野古日向守殿（水野勝

成）元和元乙卯年（一六一五）参州より和州へ移り、同五己未年（一六一九）当地へ入部のとき、祖応和尚は太守（水野勝成）に従い来たり、元和七酉歳（一六二一）寺建立なり、寛永一三丙子年（一六三六）二月二日、当寺に於いて示寂、

とあり、この「由緒書」によれば開山円譽祖応和尚は三河国の生まれで鈴木という姓であった事がわかる。最初定福寺を三河国刈谷に開創したとしている。刈谷藩主水野勝成（三万石）が転封で元和元年（一六一五）七月刈谷から大和国郡山藩主（六万石）になり、その折も円譽祖応は随行している。元和五年（一六一九）八月四日水野勝成は福山藩主となり、一五万石に昇格している。この時も円譽祖応は随行し、福山に入り、元和七年（一六二一）定福寺を開創した。

一心寺についても「浄土宗寺院由緒書」によると、

一心寺、知恩院末、備後国深津郡福山、円界山一心寺、開山円譽祖応上人、姓氏名は鈴木氏、生国は三州佐久嶋の所生、剃髪の師・修学檀林・附法之師は知らず、当寺建立いたすは寛永三丙寅年（一六二六）開山円譽上人、当地定福寺在住之内、当寺建立致し、弟子観譽円察を附属せしめ、定福寺において示寂す、

一心寺開創は寛永三年（一六二六）としている。

つぎに普化宗について検討する。

普化宗の寺院はいずれも京都白川にあった明暗寺の末寺である。福山藩領には明治三年（一八七〇）には八か寺存在

している。しかしいずれの寺も「境内これなし」、「滅罪檀家これなし」と記されている。この事から考えると収入はどのようにして得ていたのかはっきりしない。しかし八か寺にはいずれも住職名が記されている。他宗派で云えば当然の事ながら「無住につき他寺が兼帯」と記されている寺である。僧侶名とともに記されているのは、町屋住居四か寺、農家住居四か寺とある。つまりこの住職たちはいずれも町民と農民であった事がわかる。しかし明治政府は明治四年（一八七一）太政官達で普化宗は廃止された。

つぎに時宗について検討する。

時宗の寺院は二か寺あり、いずれも本山は相模国鎌倉郡西富村にある清浄光寺（通称遊行寺）である。

福山藩にある時宗の寺は沼隈郡後地村にある本願寺と沼隈郡鞆町にある永海寺である。

本願寺の境内は三四一坪あり、滅罪檀家三〇軒を抱えていた。江戸時代の史料で見ると、寛永一〇年（一六三三）「時宗遊行末寺帳」と天明八年（一七八八）「時宗遊行派本末書上覚」には所収されている。しかし明治三年（一八七〇）閏一〇月の段階ではつぎの如く記されている。「住職これなく、当藩管轄所同国同郡後地村浄土宗鎮西派中本寺阿弥陀寺住職碩成が兼帯罷りあり候」と見えている。

もう一か寺は本願寺の末寺で、沼隈郡鞆町にある永海寺であるが、先述の寛永一〇年末寺帳にはなく、天明八年の「本末書上覚」には本願寺末寺永海寺としるされている。明治三年の史料では永海寺の境内は一四坪と書かれ、滅罪檀家はこれなしと記されている。本願寺と同様無住の寺なので、浄土宗鎮西派の阿弥陀寺が兼帯している。

時宗の寺でありながら他宗派である浄土宗寺院の住職が兼務するという状態であり、一見矛盾するように思われるが、実は時宗遊行派の開創者一遍は、最初は浄土宗鎮西派の聖達の弟子になった縁もあり、江戸時代には歴代遊行上人が全国を廻国布教する時は、数多くの浄土宗寺院を一行の僧侶達の宿舎としていた。浄土宗寺院とは親しい関係に

あった。

むすび

明治三年「福山藩諸宗本末寺号其外明細帳」を史料として、この地域の仏教諸宗派寺院の分析を試みた。

まず驚いたのは天台宗の寺院が一か寺もない事であった。中国地方には、播磨国は円鏡寺、美作国は本山寺、備前国は金山寺、備中国は明王院、安芸国は松栄寺、周防国は真光院など、いずれも大寺があり、それぞれ多くの末寺を持っているのに、備後国福山藩領には一か寺も存在しないことである。何故なのか理解に苦しむところである。

備後国で最も勢力が強かったのは一向宗である。一向宗は領内の全檀家数の約五四％を占めていることは注目すべきである。一向宗本願寺が慶長七年（一六〇二）東本願寺と西本願寺に分割されたため、両本山が村落の持仏堂や阿弥陀堂に僧侶を派遣し、何々坊や何々寺に昇格させ、それぞれ末寺の開創を競ったこと、更に本山並びに法主が、木仏を始め様々な品物の購入を迫り、その事で末寺側としては多くの講員をつのり、勧化金を集めなければならなかった。その講員を檀家として把握することに成功した。

この地域で始めて明らかに出来たのは本山修験宗・当山修験宗・普化宗の僧侶は本来の身分が町民や農民であったとわかったことである。その意味では他の仏教諸宗派の僧侶と生活が異なっている点であった。

注目すべき事は、福山藩の各宗寺院の成立が中世後期から始まり、幕府が日本人全員の宗旨人別帳を作製させ、そのおり寺請証文を僧侶が書くことを義務付けた寛文年間（一六六一～七二）までには多くの寺院が開創されていたことである。

（注　本論文では一向宗と記したが、明治政府が浄土真宗の呼称を許可したのは明治五年（一八七二）であるので、対象とした時期が明治三年以前であるので一向宗とした）

参考文献

『江戸幕府寺院本末帳集成』上・中・下巻　雄山閣出版
『大日本近世史料』諸宗末寺帳上・下　東京大学出版会
『申物帳』大谷大学図書館所蔵
『木仏留・御影様之留』同朋社
『本能寺西国末寺編』大本山本能寺
『増上寺史料集』第七巻　大本山増上寺
『曹洞宗宝永年間僧録寺院帳』大本山總持寺
『福山藩諸宗本末寺号其外明細帳』国立国会図書館所蔵
『国史大辞典』吉川弘文館
『日本名刹大辞典』雄山閣出版

（たまむろ・ふみお　名誉教授）